

令和4(2022)年度 資源評価調査状況報告書(新規拡大種)

ブロック：瀬戸内海ブロック

アサリ

海域	瀬戸内海	参加機関	水産研究・教育機構 水産技術研究所 沿岸生態システム部、兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター、広島県農林水産局水産課、福岡県水産海洋技術センター豊前海研究所
----	------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産技術研は調査指針および状況報告書を取りまとめ、生物情報の収集を実施した
- ・各県は生物情報の収集を実施した
- ・本年度は資源評価調査報告書の作成は行わず、漁獲統計等の更新および関連情報の収集を実施した
- ・漁業・養殖業生産統計年報による魚種別漁獲量の「あさり類」には、国内に分布するアサリ属貝類であるアサリとヒメアサリの2種が含まれるが、ヒメアサリはほとんど漁獲されないため、「あさり類」の漁獲量を本資源の漁獲量として利用することとした

(2) データ収集状況

- ・兵庫県では播磨灘西部の一部漁協における2015～2021年の年別および2021年の月別の漁獲量・努力量の情報を収集した
- ・広島県では2021、2022年の月別の市場情報の漁獲量(一部)を収集した
- ・福岡県では2018～2022年の各年の市場情報の漁獲量(一部)を収集した
- ・漁業・養殖業生産統計年報による「あさり類」の漁獲量は確定値としては2020年まで利用可能である

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：南西諸島を除く日本列島全域の干潟域等、主に内湾の水深10m以浅の砂・礫・泥から転石帯に生息する(伊藤 2002、浜口 2017)。外洋に面した浜では同属のヒメアサリが生息する(浜口 2017)
- (2) 年齢・成長：受精後2～3週間程度の浮遊幼生期間を経て殻長0.2～0.3mmで着底する(伊藤 2002、浜口・手塚 2007)。寿命は8～9年で最大殻長は90mm程度、1～3年で漁獲可能な殻長30mmのサイズに成長するが、成長の地域差は大きい(全国沿岸漁業振興開発協会 1997、浜口 2017、柿野 2021)
- (3) 成熟・産卵：産卵期は東京湾以南では概ね春～秋の間であり(松本ほか 2014)、成熟は温度や餌料等の環境条件の影響を受ける(鳥羽ほか 1992)
- (4) 被捕食関係：ろ過食者であり主要な餌は微細藻類等の懸濁態有機物であるが、浮遊

幼生は1~8 μm の微細藻類等を餌料としている (Tezuka et al. 2009)。魚類・鳥類・巻貝などによる食害、寄生生物による被害が問題となっている (酒井 2000、重田・薄 2012、鳥羽 2017、泉川・村山 2018、Waki et al. 2018、柿野 2021)

(4) 備考

- ・資源量の減少で漁獲実態の把握が困難になってきている
- ・稚貝の移植放流のほか、波浪による流出や食害防止を目的とする網袋や被覆網の設置、垂下養殖など増養殖手法の開発と適用が進められている (多賀ほか 2005、日向野・浅尾 2017、野副ほか 2019)

引用文献

- 浜口昌巳 (2017) アサリ. 水産海洋ハンドブック第3版, 竹内俊郎ほか編, 生物研究社, 350-351.
- 浜口昌巳・手塚尚明 (2007) アサリ浮遊幼生の分散と着底. *Sessile Organisms*, **24**, 69-79.
- 日向野純也・浅尾大輔 (2017) アサリ垂下養殖の意義と普及に向けた課題. *水産技術*, **9**, 87-100.
- 伊藤 博 (2002) アサリとはどんな生き物か: アサリの生態, および漁業生産の推移. *日本ベントス学会誌*, **57**, 134-138.
- 泉川晃一・村山史康 (2018) 浅口市寄島町地先人工干潟におけるアサリ減耗要因の推定. *岡山県農林水産総合センター水産研究所報告*, **33**, 17-22.
- 柿野 純 (2021) 東京湾の環境とアサリ漁業の40年. 青娥書房, 東京, 195 pp.
- 松本才絵・淡路雅彦・日向野純也・長谷川夏樹・山本敏博・柴田玲奈・秦 安史・櫻井 泉・宮脇 大・平井 玲・程川和宏・羽生和弘・生嶋 登・内川純一・張 成年 (2014) 日本国内6地点におけるアサリの生殖周期. *日本水産学会誌*, **80**, 548-560.
- 野副 滉・大形拓路・俵積田貴彦・恵崎 撰・黒川皓平 (2019) 福岡県豊前海における網袋を用いたアサリの育成. *福岡県水産海洋技術センター研究報告*, **29**, 9-15.
- 酒井敬一 (2000) 万石浦アサリ漁場におけるサキグロタマツメタガイの食害について. *宮城県水産研究開発センター研究報告*, **16**, 109-111.
- 重田利拓・薄 浩則 (2012) 魚類によるアサリ食害—野外標本に基づく食害魚種リスト—. *水産技術*, **5**, 1-19.
- 多賀 茂・和西昭仁・馬場俊典・松野 進・桃山和夫 (2005) 山口県瀬戸内海沿岸干潟における放流アサリの成長と生残. *山口県水産研究センター研究報告*, **3**, 87-96.
- Tezuka, N., E. Ichisaki, M. Kanematsu, H. Usuki, M. Hamaguchi, and K. Iseki (2009) Particle retention efficiency of asari clam *Ruditapes philippinarum* larvae. *Aquatic Biology*, **6**, 281-287.
- 鳥羽光晴・夏目 洋・山川 紘 (1992) 東京湾産アサリの成熟と産卵に関する二, 三の知見. *水産工学*, **29**, 47-53.
- 鳥羽光晴 (2017) アサリ資源の減少に関する議論への再訪. *日本水産学会誌*, **83**, 914-941.

Waki, T., M. Takahashi, T. Eki, M. Hiasa, K. Umeda, N. Karakawa, and T. Yoshinaga (2018) Impact of *Perkinsus olseni* infection on a wild population of Manila clam *Ruditapes philippinarum* in Ariake Bay, Japan. *Journal of Invertebrate Pathology*, **153**, 134-144.

全国沿岸漁業振興開発協会 (1997) 沿岸漁場整備開発事業増殖場造成計画指針 ヒラメ・アサリ編 平成8年度版, 全国沿岸漁業振興開発協会, 東京, 316pp.